

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「言語コミュニケーション文化学」に関する専門家の養成を目指す。	→カリキュラム委員会におけるカリキュラムの定期的検証。	A	A	A	/	/
2. 社会人学生を受け入れ、高度職業人の養成を目指す。	→大阪梅田キャンパスでの開講数。	A	A	A	/	/
3. 課程博士学位授与者を毎年度1名以上輩出する。	→研究指導体制の改善、公表。	A	A	A	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	前期課程では、言語コミュニケーション文化学の4つの研究領域に対応した学位(言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学)を授与し、後期課程では、言語コミュニケーション文化の学位を授与している。2011年度は、カリキュラム委員会のもとに、言語教育領域検討ワーキンググループを組織し、当該領域プログラムの今後のカリキュラム改革の方向を検討した。
目標2	社会人を対象とする夜間の課題研究コースを当初より設置して、現職の英語教員の再研修の場を提供するなど、社会人を対象にした広報活動に力を入れている。実際に、社会人として活躍しながら、勉学に励んでいる者も多い。ただ、現実には近年では、そのような社会人でも昼間の修士論文コースに学ぶ者が多く、上記課題研究コースの入学者が減る傾向にあるもの確かである(2012年4月現在在籍者3名)。
目標3	課程博士学位授与者を2011年度は3名輩出した。現在の研究指導体制が十分に機能していると思われる。
備考	

☆